「私と卓球」

16 期　中村明彦

私が初めて卓球のラケットを握ったのは、小学校の 5 年生の頃でした。近くに武蔵野卓球会館というラケットとボールを貸してくれて、1 時間 30 円で卓球をやらせてくれる施設があり、同じクラスの石田君に連れて行ってもらったのが始まりでした。石田君は家族でよく遊びに来ていたということで、私を連れて行ってくれたのですが、いい音をたてて弾んだ球がコートにたまたま入った時の楽しさに、いつしかはまってしまったのを覚えています。

武蔵野第一中学校に入学しましたが、中学校に入ると卓球部があるということで、迷いなく卓球部へ入部しました。当時世界を制覇した荻村さんの使っていたというスポンジラバーでの卓球に挑戦、教室の机を片付けては、卓球台を運んで、仲間と 11 本勝負の勝ち抜き戦をやっていた記憶が残っています。教えてくれる人もいない中でとにかく仲間とわーわーやっていたことが多かったと思いますが、暇があると武蔵野卓球会館に行って、椅子を相手にサーブ練習をしたり、上手な大人の人が来ると、練習をしてもらったりしていました。大晦日もお正月も開けてくれていた卓球場で新年を迎えるのが当たり前になった頃、武蔵野市の中学生大会で優勝したり、東京都の大会で上位に進んだりできるようになり、卓球が中心の毎日になっていきました。卓球場で知り合った 1 年先輩に、近くの中学で武蔵野市のトップだった第三中の西島さんがいて、当時、難関とされた名門校の西高に進学されたと聞きました。その後いつしか、西高に行けたらいいなと思うようになった気がします。私の武蔵野第一中も、国立高校時代に国体代表になって、外語大へ進んだ先輩の杉本選手が時折、指導に来てくれる素晴らしい環境でしたが、本気になって卓球をやりたいと思わせてくれたのは武蔵野卓球会館で知り合った岩崎通信や武蔵野美術大学の選手の人たちでした。

運よく西高に入学できると分かった時に、西島さんが、西高の練習に連れて行ってくれました。最初におーいやろうと声をかけてくれたのが、やっぱり希望した大学に入学が決まったということで西高に練習に来ていた中林さん、同じペンフォルダーでしたが、懐の深いロングが上手で、何をやっても流されて一蹴された記憶があります。他にいろいろな人に試合をしてもらいましたが、こんなに卓球が上手な人が大勢いる高校に来られてよかったと思って帰ったのを覚えています。残念ながら、か、幸せなことにか、すってんてんにしてくれた中林さん以外の人との対決の記憶は残っていません。

西高の卓球部に入ってびっくりです、東京都で団体戦準優勝の阿佐ヶ谷中学のメンバー、村上君と渡辺君がいました。他に、中学校で卓球してたという安東君、吉田君、田中君、野崎君と大勢の同期生達、いきなり１年生チームで１０都立で団体優勝、ダブルスは中村・渡辺組が優勝、混合は中村・高村組が優勝、シングルスで中村準優勝のスタート、2 年生の皆さんには、出番を奪ってしまって、結果的にはご迷惑をおかけしてしまいました。

とはいえ私は西高に入って、高校の卓球に歓迎されたスタートが切れたと思っています。

今でも、国公立の大会では西高が大活躍とのこと、とてもうれしいお話を顧問の先生からお聞きして応援したい気持ちで一杯です。

先輩たちが東京都で団体戦優勝したという歴史を知って挑戦した東京都の.新人大会の団体戦、残念ながらベスト８、優勝した関東商高（今の関東一高）と２－３の大接戦、もし、オーダー間違えなければ、歴史が変わっていたはず、という悪夢、まだ続いています。

私は、同期のみんなが受験勉強で練習から去る中、高校三年の秋の国体予選まで部活動をして高校の試合に出ていました。お前は大学に行くつもりがないのか？と体育の先生が心配して、体育館にいると声をかけてくれました。例年 2 年生の秋で引退、新しい 2 年生が部長になります。やめない元部長が練習にいて、みんなは部長、大部長と使い分けていました。17 期の皆さんには迷惑かけたかも知れないと今、思います。おかげでいくつかの大学から無試験で入学して卓球をしないかというお誘いも受けることができました。

進学は卓球でと思って秋から受験勉強を始めました。慶応大学は当時体育会推薦ありで 12 期の先輩の隅田さんがお世話してくれました、おかげで商学部合格、東京教育大学は 13 期の小川さんのお世話で、数学で受験、学科選択は荻村さんの助言でした。卓球やりたければ、文科系に行け、理科系は避けろ、で文系に近い実験のない数学を受験しました。慶応も教育大も当時は関東学生卓球リーグの 2 部、どちらかに行きたかったというのが本音です、結果は両方合格、月謝が安い国立を選択することになりました。東京教育大学理学部数学科というよりは教育大卓球部に進学した気持ちでした。この偶然の選択が私の生涯のパートナーとの出会いになりました。もし、慶応を選んでいたら、どんな人生になっていたのでしょうか？やりなおせるなら、やり直してみたいと思うこともあります。（笑）

入学当初からいきなりリーグ戦でシングルスとダブルスに抜擢され、高校生の卓球のイメージの中で大学生と対戦、パワーと技術にびっくりさせられました。シングルス 1 勝、ダブルス 1 勝、あとは全部負け、貢献度ゼロ、ここで今までの卓球のすべてを捨てて大学の卓球という、新しいスタートが切れればよかったのにと 50 年たって気が付くとは、なんとまあ浅はかな自分なのかと反省です。

大学では毎日卓球、終わった後は先輩と麻雀、授業は単位を取りに行くだけ、あっという間の 4 年間でした。春と秋のリーグ戦で 8 回のうち 5 回が入れ替え戦、2 部に残れれば大成功、3 部に落ちたら、2 部に上がる、大学に入ったときは 2 部でした、そこで最下位

3 部に落ちて秋に上がって 2 部になって、又、落ちて、又、上がって、リーグ戦以外に

入れ替え戦の試合があるのでたぶん教育大か筑波大から一番試合で頑張ったで賞がもらえるかも知れません。大学時代の関東リーグの出場試合数はたぶん私が歴史上一番多いと思います。

そして、大学を出て就職しました。最先端のコンピューターの会社でした。日本ユニバックです。今は日本ユニシスに名前が変わっています。この会社の卓球部、私がお友達と一緒に作りました。今も、東卓のリーグに参加しています。日本ユニシスはバドミントンで有名ですが、このバドミントン部も私が立ち上げをお世話しました。私が筑波大学の体育会卓球

部の監督をしていた時に、会社で実業団バドミントン部を立ち上げる話が出ました。次期オリンピックのバルセロナでバドミントンが正式種目に採用されたのと、バロースとユニバックが合併してユニシスが誕生したのがきっかけになりました。平成が始まった年です。実業団が持てる会社になったら是非バドミントン部を作りたいと考えていた社員の提案でした。会社にはスポーツに詳しい人がいなかったこともあり、親しかった人事部長から提案書を見てほしいとの依頼があり、私は、やめた方がいいと、助言しました。外資系の会社で数年ごとに社長が入れ替わり、変わるたびに、方針が 180 度変わる会社に実業団活動はそぐわないと思ったからです。日本の財産ともいえる選手の皆さんを預かって、育てていくのは、とても決意のいることで、継続性が必要とお話ししました。しばらくすると、人事担当役員のご判断で、選手を 3 名採用したのだが、会社としてどうしていいかわからない、助けてほしいと、人事部長から相談がありました。私としては、おやめなさいと言ったのに、はありましたが、バドミントン部長を引き受けることになりました。役員会での実業団活動の承認、予算の申請、監督、コーチの人選と勧誘等で本業のプロジェクト管理の仕事が影響を受けなかったといえば嘘になります。10 年間通った筑波大学の医学部のコーチや体育会卓球部の監督とも決別せざるを得ない状況でした。以来 25 年の月日がたち、バドミントン部の部長から後援会の幹事と立場は変わりながらユニシスのバドミントンを応援することになりました。そのかいもあって、2014 年には男子のトーマス杯の日本初優勝、女子のユーバー杯の銀メダルの主力メンバーたちをユニシスから送り出せるまでになりました。2015 年にはスデイルマンカップ（男女混合の団体戦）で世界 2 位に輝いたメンバーにもユニシスの選手たちが大勢輝いていました。今、思えば、なんで卓球の実業団をやらなかったのか？ちょっと残念な気がします。2006 年の定年をきっかけにして卓球の指導者への道を歩き始めました。公認スポーツ指導員の資格取得の勉強や、ジュニアスポーツ指導員など 60 の手習いを始めました。5 年ほど前に家内と一緒に立ち上げた、地元の子供たちのクラブも、入れ替わりはありますが、30 名前後の会員を得て、週に 3 回練習を見るようになっています。一言で変わっていく子供たちを見守りながら、元気をもらって生きる毎日です。卓球に感謝・感謝の毎日です。